

岡崎市 家康ゆかりの地をめぐる



岡崎城は松平家の居城。
春は桜も見どころ

生誕地・岡崎城は三河武士発祥の地

愛知県には織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはじめとする戦国武将が活躍した地が数多く存在する。2017年NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」に関連する舞台も少なくない。

なかでも直虎が育てた井伊直政は徳川家康に仕え、徳川四天王の1人と称されたほど、家康との関係は深い。その家康とゆかりが深いのが岡崎市だ。家康が崎城で1542年(天文11年)に生まれた。河武士発祥の地で、史跡も多い。岡崎城は章ヶ城とも呼ばれ、1455年(康生元年)に三河の守護代だった西郷弾正左衛門頼頼が築城。1524年に家康の祖父・松平清康が攻め、松平家の居城となった。家康はこの岡崎、日本刀のレプリカを上1000人未満)160

戦国の覇者の足跡 そこかしこに



徳川将軍家の菩提寺、大樹寺①と、伊賀八幡宮

円、三河武士のやから家康館が一般360円、団体(同)280円、岡崎城・家康館共通が一般510円、団体(同)410円。寺には松平八代の墓、歴代将軍の位牌、家康73歳のときの木像が祀られている。家康は遺言で「余の遺体は久能山へ埋蔵せよ」「位牌は三河の大樹寺へ安置せよ」と残している。

大樹寺は松平家(徳川将軍家の祖)、徳川将軍家の菩提寺。桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に敗れた際、今川軍についでいた家康が逃げ帰った寺でもある。先祖の墓を祈願するため、三重県の前で自害しようとした家康が寺の住職・登善上人の石橋越しの伊賀八幡宮の社殿は三代将軍家光が1636年(寛永13年)に造営したもの。

六所神社は家康の産土神として代々徳川家の尊敬が篤く、現在の社殿は伊賀八幡宮の社殿と同じ年に家光が再建。本殿、幣殿、拝殿、神供所、楼門が重要文化財に指定されている。

このほかにも岡崎には随念寺や大泉寺、八柱神社、請願寺、諏訪神社、白山神社、妙源寺、滝山寺・滝山東照宮、信光明寺など徳川家や家康ゆかりの社寺仏閣が紹介できないくらい多い。